

1. はじめに

本校は鹿児島県最南端の中学校で、一島一中である。素朴で純粋な生徒が多い。学年を超えた縦のつながりも強く、様々な場面で全校生徒が協力し、学校行事等を盛り上げる姿が見られる。中高一貫教育であり、卒業生のほとんどは地元の与論高校に進学している。平成27年1月末現在153名の生徒が在籍している。



定期便は航空機が1日1便(13:00頃与論着)、船舶が上り(12:00頃与論着)下り(14:00頃与論着)各1日1便である。定期便の都合上、新聞はその日の新聞が夕方届けられ、荒天等で定期便が来ない場合は定期便の次回到着時にそれまでの新聞がまとめて届けられる。生活に必要なもののほとんどは島内で購入することが可能であるが、大型商業施設がないため、インターネットを利用し必要なものや欲しいものを購入する家庭も多く、パソコンの普及率も高い。情報を収集する手段として、新聞よりもインターネットに頼る家庭も多いようである。

県本土と比較すると新聞に対する意識がずいぶん異なると考えられるが、教育に新聞を活用するN I E実践は、言語活動を通した思考力・判断力・表現力を養う以外にも様々な教育的効果が期待されると考え、本年度からN I E実践を進めて行くことになった。

2. 実践内容

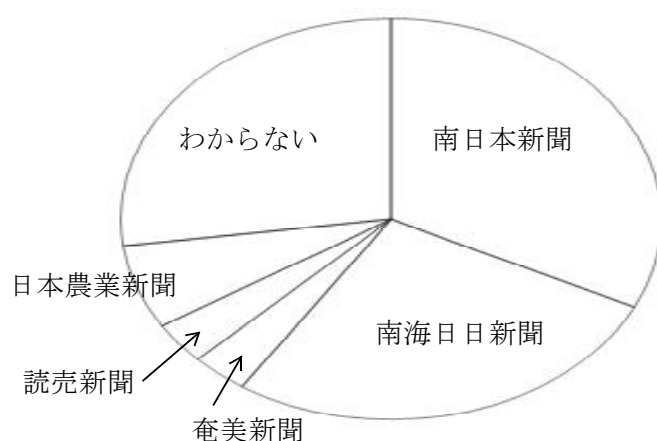
① 生徒の実態把握

N I E実践にあたって、生徒の実態を把握するため、全校生徒を対象に新聞に関するアンケート調査を行った。

〈あなたの家では新聞を定期購読していますか?〉

している (39.7%)	していない (60.3%)
--------------	---------------

〈定期購読している新聞紙名を教えてください。(複数回答可)〉



〈あなたは新聞をどれくらい読んでいますか？〉

毎日読む	0.0 %	1 日おきに読む	2.1 %
週に 1 ～ 2 回	16.3 %	ほとんど読まない	81.6 %

新聞を定期購読している家庭は約 40 %で予想以上に少なかった。また、定期購読をしていても購読紙名を知らない生徒も多い。これまで本校では南日本新聞、南海日日新聞、奄美新聞の 3 紙を購読しており、図書室でいつでも閲覧することができる状態であったが、生徒たちが新聞を読むことがほとんどないことも分かり、新聞に対する意識はきわめて低いといえる。

そこでまず、生徒たちが新聞を身近に感じられるような取り組みを進めていくことにした。

② N I E 掲示板の設置

全学年の生徒たちが最も多く目にする場所に N I E 掲示板を設置した。生徒たちの興味を少しずつ引き出すために、たくさんの記事を一気に掲示するのではなく、掲示する記事を少しずつ増やしていった。



ア 南日本新聞「若い目」の投稿作文の掲示

事件や事故の記事に比べて、生徒たちにとって同年代の生徒が書いた作文は読みやすいと考え、最初は南日本新聞の「若い目」を掲示し、毎日更新している。

イ 1 面トップニュースの掲示

毎日配達される新聞の 1 面トップニュースの記事を掲示。本日の主な紙面も同時に掲示し、興味のある記事については、図書室に行って実際に新聞を開くよう意識づけた。

ウ コラムの掲示

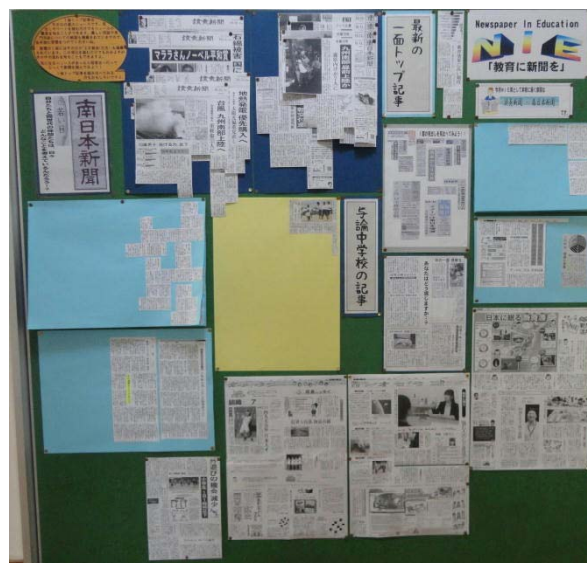
季節の記事や、スポーツに関する記事、広く話題になっている時事などの生徒たちの興味や関心が高そうな内容を扱っているコラムを掲示し、随時更新している。

エ 社説の掲示

コラムと同様、生徒たちの興味や関心が高そうな内容を扱っているコラムを掲示し、随時更新している。

オ 特集記事や、話題になっている記事の掲示

各新聞社の 1 ヶ月のニュースをまとめた記事や、広く話題になったノーベル物理学賞受賞に関する記事、錦織圭選手の活躍に関する記事、東京オリンピックに関する記事、環境問題やエネルギーに関する記事、さら



にいじめ自殺や犬猫の殺処分等の命の尊さについて考えさせられる記事等を随時掲載した。

③ 授業実践

ア 新聞に興味・関心をもたせる授業

新聞を活用した授業を進めていくにあたって、新聞の基本的なことについて学習する授業を行った。1ヶ月の間に起きた主なニュースをまとめた紙面を掲示し、そのニュースの記事を探すことから始めた。これまでに何かしらの目的をもって新聞に触れた生徒は予想以上に少なかったようで、記事の流れやページの記載場所も分からない生徒もいた。記事を探す中で出た疑問や気づきを挙げ、それらの疑問や気づきについて考えたり答えたりする活動を通して、新聞記事の基本的な構成や読み進め方を教えることができ、新聞に対する生徒たちの興味や関心を引き出すことができたと考える。



イ 新聞に施されている工夫に気づく授業

ひとつのニュースにしばって複数の紙面を読み比べ、タイトルの付け方で読み手の印象が変わってくることや、新聞社が読者に読ませる様々な工夫を行っていることに気づかせる授業を行った。文字の大きさや1行の文字数にも各新聞社の工夫がなされていることを知り、さらに新聞に対する興味や関心が高まったと考えられる。また、ひとつの記事にみんなでタイトルを付ける取り組みを通して、ひとつの新聞記事が完成するまでの苦労も体験したようである。

ウ 生命尊重授業におけるN I Eの活用

生命尊重授業において、N I Eを活用した授業を行った。複数の新聞記事から、自分自身が命の尊さについて考える事ができる記事を切り取り、書画カメラで記事の簡単な紹介と自分の考えを述べる取り組みを実施した。最初の頃に比べて記事を探す作業を効率良く進めることができるようになっていた。



これらの授業実践は教職員間の意識の高揚につなげるために、全て参観授業として実施した。このほかにも、各教科で学習内容の資料や、考えを深めるための資料として新聞を活用している。

④ その他の取り組み

ア 各学級の1分間スピーチの取り組み

本校では、表現力や思考力を高める取り組みとして各学級で毎日1分間スピーチを実施している。その中で、N I E掲示板と連携した1分間スピーチを行っている。

- ・ 「若い目」を読み、同じ題で自分の考えをまとめて発表する。
- ・ コラムを読む。

- ・ コラムを要約して読み、自分の考えを付け加えて発表する。
 - ・ 1面トップ記事を読み、記事の要約と自分の考えを発表する。
- など、学年や学級の実態によって行っている。

イ 様々な校務分掌との連携

全職員で協力する体制を築くため、各係で新聞記事を用いた活動を実施している。

- ・ 教務から毎週発行される週行事予定表での、新聞記事の掲載。
- ・ 図書館だよりでの、新聞記事を活用した本の紹介。
- ・ 学校だよりや学級通信での学校での、取り組みの紹介や保護者への啓発。

3. 成果と課題

実態調査のためのアンケートに続いて、年度末に2回目のアンケート調査を行った。

〈1学期当初に比べて新聞に対する興味に変化がありましたか？〉

9.5 %	42.9 %	47.6 %
興味深くなった	↑	かわらない
どちらかといえば興味深くなった （興味がなくなると答えた生徒は0 %）		

新聞に対して興味深くなったと答えた生徒が半数を超え、新聞に対する難しいイメージを変化させる一定の効果はあったと考えられる。興味深くなったと答えた理由として、新聞を読むのが楽しくなった、新聞を目にすると読むようになった、N I Eの授業を受けたからなど実践者として嬉しく感じる意見もあった。実践授業後の生徒たちの感想には、家でももっと新聞を読んでみたいという意見や、次の新聞を使った授業が楽しみだとの感想が多く寄せられている。興味がなくなると答えた生徒が全くいなかったことについては一安心したが、半数近くの生徒が以前と意識が変わらないと答えており、今後の活動のさらなる改善の必要性を感じた。

N I E実践指定校として初年度の今年度は私たち教師自身も分からないことばかりで、手探りの状態での活動が続いてきた。年度当初に掲げた実践計画も順調に進行しているとは言い難いのが現状である。本年度は教師主体のN I E実践が大半を占めたため、教師の負担も軽くはなかった。2年目となる来年度は今年度の反省を踏まえ、生徒主体の取り組みを実践するとともに教師間の連携を図りながら、実践計画に沿ったN I E実践を行っていきたいと考えている。

